

爽やかな初夏のもと、社会人受講生や卒業生、
本学大学院生も聴講する公開講座となりました。



公開講座) 遺跡の保護と活用

講師: 縄文世界遺産研究室室長 越田 賢一郎先生

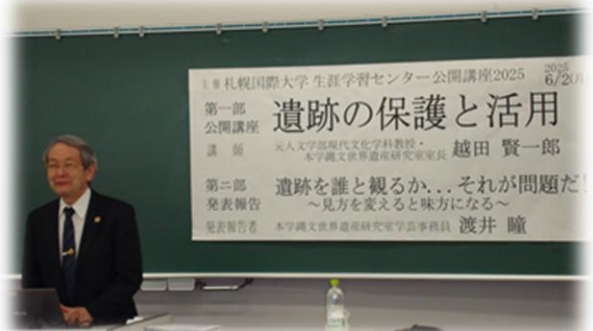
「身の周りに目を向けること、それが世界遺産を理解する始まりです」

2021年7月27日に世界遺産登録となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」も然り、日本の世界遺産を世界の世界遺産と比較すると、各地で異なる環境のもとに、それに適した文化や文明が生まれたことがわかります。

遺産はその地に生きる人にとっては「ふるさと」の
ようなものだと言います。

その地特有の気候や植生、人の生業や信仰、生活文化
にも目を向けることが、今にもつながるその地の遺産を
理解するきっかけとなるのです。遺跡の「保護」と

「活用」に生かすためにも、その地域の特色を知る視点を持つことが大切だと伝えられました。



発表報告)

遺跡を誰と観るか…それが問題だ！ ～見方を変えると味方になる～

報告発表: 同研究室学芸事務員 渡井瞳さん

遺跡と地域に付加価値を与えうる資源について、
調査した地域を主に、結果を発表する報告でした。

気が付かない資源の報告に加え、後半に紹介された
調査地域のイベントや楽しみ方、名物などの紹介は、受講生にとっては単なるガイドよりも一層
魅力を感じられたのではないのでしょうか。今後、その地への訪問を計画したくなる報告でした。



～ 講座・発表報告後の受講生からの話題 ～

札幌市は他地域に比べて遺跡があっても、身近にそのことを
感じる環境が少ないことを憂いた話題の他、遺跡の地では縄文人
の気持ちになって見学者が栗を拾い、その栗を使った観光名物
を出すなどの提案に、講師が応じる時もあり、最後は談笑しつつ
講座が終了しました。